

● 中国

松本憲治

「被爆70年」を迎えた広島。まず広島交響楽団。「被爆70年」関連では、まず何よりもマルタ・アルゲリッチ共演の「平和の夕べコンサート」。広島市主催。8月5日文化学園HBGホールで。指揮は秋山和慶。朗読にアンヌ・カトリヌ・デュトワ、平野啓一郎を加え、曲目は、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第1番、ヒンデミットの交響曲「世界の調和」など。8月11日には東京・サントリーホールで。この模様はNHKで8月30日、また12月27日にも放映された。「広響・アルゲリッチ」は今年広島の音楽ファンの第一の話題であり、広島を沸かせ、また在広の演奏家のよき刺激にもなった。加えて11月には「ヒロシマの追憶と飛翔〜二つの交響曲」と題して、1949年に初演されたフィンランドの作曲家エルッキ・アールトネン作曲の「交響曲第2番HIROSHIMA」と1985年に初演された團伊玖磨作曲「交響曲第6番HIROSHIMA」。高関健指揮、ソプラノ並河寿美、横笛赤尾三千子。プレトークは研究者で「ヒロシマと音楽委員会」の能登原由美。また、広響ディスカバリーシリーズでは、秋山和慶の指揮で2015年3月に麴場富美子作曲「摂氏4000度からの未来」を世界初演している。広島交響楽団の創立50周年記念事業としての委嘱作品。広島市主催。この録音はCD発売。「摂氏4000度」とは原子爆弾の炸裂時の地表温度。広島交響楽団の定期演奏会は第346回〜355回の10公演。主だった指揮者は音楽監督である秋山和慶、そしてユベール・スダーン、ジョゼフ・ウォルフ、アラン・プリバエフ、大植英次など。定期公演での「被爆70年」関連は《All for Peace》と題された第355回特別定期。曲目はマーラーの交響曲第5番など。指揮は大植英次。

大植英次はこれと別に「威風堂々クラシック in Hiroshima」と題された、一般公募による青少年のためのオーケストラコンサートを11月に開催、指揮している。主催は、威風堂々クラシック in Hiroshima委員会、広島市、(公財)広島市文化財団。協力は広島交響楽協会、大植英次後援会。

アステールプラザで継続されている、ひろしまオペラレクセション。オペラ公演は9月にモーツァルト「フィガロの結婚」。指揮:川瀬賢太郎、演出:岩田宗達。在広のオペラ団体公演「オペラマラソン」は、広島シティーオペラ推進委員会が3月に「椿姫」、野薔薇座が「ザ・ファントム 野薔薇座の怪人」、ひろしまオペラアンサンブルがメノッティ「領事」。

同じくアステールプラザ主催事業である、音楽監督/細川俊夫による現代音楽のHIROSHIMA HAPPY NEW EARシリーズでは、自身作曲の「リアの物語」が1月に。指揮:川瀬賢太郎、演出:ルーカ・ヴェッジェッティ。これはアステールプラザの能舞台で。管弦楽は広島交響楽団。細川俊夫はそれ以外に12月にエリザベト音楽大学主催で「星のない夜」を。指揮は山下一史、管弦楽、合唱はエリザベト音楽大学。

県北の三次市に三次市民ホール「きりり」が2015年2月21日にオープン。1006席多目的ホールだが音楽演奏に配慮した施設。ボランティアグループであるみよし市民ホール「きりりクラブ」が事業提案するシステム。「県北の文化拠点」「市民が日常的に芸術文化に触れる」がこのホールでは、まずオープニング前の

2月に広島交響楽団が「試演会」として無料公演。モーツァルト交響曲41番やドヴォルザークのスラブ舞曲などの名曲コンサート。オープニング後の4月には兵庫芸術文化センター管弦楽団の公演。指揮:佐渡裕。ショパン:ピアノ協奏曲2番、ブラーム交響曲2番など。ホール所属としてみよしきりり児童合唱団を設立。

広島市在住の演奏家によって構成されている広島ウィンド・オーケストラ。10月に「バラード/兼田敏作品集」のCDをリリース。レコード芸術11月号で特選盤に。指揮は音楽監督の下野竜也。12月には第44回定期演奏会。曲は昨年委嘱初演されたブレヴィンの「ウィンドオーケストラのための音楽」など。

中国放送主催の「第九ひろしま」は今年31回を迎え、「年末恒例」の第九の演奏が一頃に比べ減っている中、いわゆる「市民第九の演奏」についてはアカデミズム側からのさまざまな意見がある中、ますます勢いを感じられる。指揮は山下一史。市民合唱1700人、観客4000人近く、は昨年同様。

岡山。岡山フィルハーモニック管弦楽団の定期演奏会。指揮はいずれも首席指揮者ハンスイェルク・シェレンベルガー。1月の第46回は「ニューイヤークコンサート」としてベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」。そしてドヴォルザーク「新世界より」。7月の第47回には客演として「アンサンブル・ウィーン」。ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ウィーン交響楽団の首席奏者たち。10月には第48回。ブラームスのピアノ協奏曲第1番、交響曲第2番。オペラでは、1月31日、2月1日に中国二期会がカールマンのオペレッタ「伯爵夫人マリツァ」全3幕を岡山市市民文化ホール。指揮・演出は井村誠貴。岡山市民芸術祭の事業。「トロヴァトーリ岡山」改め「オペラ劇団トロヴァトーリ」は、16年5月の「落語オペラ〜目黒のさんま」公演を制作中。松井和彦・演出・指揮。また市民参加型オペラを制作している「オペラプラザ岡山」が1月25日にオペラ「カルメン」を。岡山市市民会館大ホール。

山口。まず秋吉台国際芸術村。第4回秋吉台音楽コンクールが4月末〜5月初頭に、弦楽器部門は1位なしの2位にCb片岡夢見、Vn藤江扶紀、クラリネット部門1位にコハーン・イシュトヴァーン。

「秋吉台の夏2015」として、現代音楽セミナー&フェスティバルが8月下旬に。講師として作曲の湯浅譲二、田中吉史、徳永崇、クラリネットのFlの山根孝司など。

山口室内オペラ工房の活動が継続。4月に「あまじやくとらこ姫」、9月に「オペラガラコンサート」。

先端的な現代表現の場としての山口情報センター(YCAM)では、2月に電子音響を中心にした最新のサウンドアートを。これは15回目目で7月には電子音響のサウンドワークショップを開催している。

鳥根。鳥根県芸術文化センター・グラントワのいわみ芸術劇場では、15年2月15日に、いわみ発創作オペラ「ヒト・マル」を公演。この創作オペラは石見を題材に脚本・加藤直、作曲・寺島睦也、プロデューサー・栗山文昭で。主催は鳥根県、しまね文化財団、支援に文化庁、助成に(一財)地域創造。

鳥取では、鳥取オペラ協会が鳥取県総合芸術文化祭トリアートのメイン事業として11月にモーツァルト「魔笛」を。倉吉市未来中心大ホール。指揮:松岡究、演出:中村敬一。演奏:アザレア室内オーケストラ。「倉吉オペラ」として県外にも知られ、地域に根付くとともに質の高いオペラを継続的に公演している。